（様式１）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	診療所看護師のアドバンス・ケア・プランニングへの関わりの実態		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	看護学部看護学科	准教授	木谷　尚美
分担者	看護学部看護学科	講師	伊藤　裕佳
	看護学部看護学科	講師	青柳　寿弥
	看護学部看護学科	教授	竹内　登美子

研究結果の概要

【はじめに】近年，患者を取り巻く医療環境は，治療方法の複雑化，治療を受ける医療機関の多様化等により，意思決定を迫られる機会が増えている。本人の意思を尊重しようとする枠組みとして，アドバンスケア・プランニング（以下，ACP）の重要性が高まっているが，高齢者の意思決定支援においては未だ不十分である。今回，ACP の実践者として診療所（クリニックや医院）に勤務する看護職（以下，診療所看護師）に着目した。その理由は，高齢者の医療サービスの使用頻度を考えると，診療所看護師は高齢者の日々の生活を身近で感じることのできる地域の医療職であり，比較的健康な時期から継続的に ACP を実践でき，変化し得る意思を把握できる存在として期待できるからである。本研究は富山県内の診療所看護師の ACP への関わりの実態を明らかにすることを目的とした。

【方法】令和 3 年 12 月末現在，日本医師会地域医療情報システム「一般診療所のうち内科系診療所」に登録されている施設 399 か所のうち，内科の診療科を有しない診療所 30 か所を除外した 369 か所に勤務する看護職を対象にアンケート調査を実施した。調査内容は，基本属性（年齢，性別，看護経験年数，診療所での経験年数，教育歴，取得資格，現在の職場を希望した理由，勤務形態），ACP への関わりの有無と内容，学習の経験，診療所看護師が ACP を行うことに対する思いである。研究対象者の基本属性および調査項目に関する記述統計を算出し，自由記載内容は記述的に分析した。

【結果および考察】令和 4 年 4 月末現在 182 人より回答があった。現在は回収された質問紙を整理し，データ分析中である。現時点では，診療所看護師の多くが高齢者への ACP 実践が必要であると考えているが，「知識がない」「診療業務に忙しく時間がない」「医師の裁量が大きく看護師のできることには限界がある」等，実施するうえでの課題も挙げられた。本研究で得られた結果をもとに，診療所看護師が実施可能な高齢者への ACP の検討が必要である。

今後の展開

得られた分析結果をもとに考察を深める。本研究結果を基礎資料とし，診療所看護師が ACP を実践するための教育プログラムの開発を目指している。それにより，診療所看護師の ACP 実践者という新しい役割の獲得とともに，老年看護実践力向上につながると考えている。